



日本国際薬膳師会

<http://yakuzenshi.jp/>

目次	薬膳師会の活動とこれから……………1	老化防止と認知症対策……………5,6
	食と共に人生の旅①……………2	会員の声・編集後記……………7
	中医学における脳～陰陽と脳～…3	各部報告・お知らせ/ ミニコラム……………8
	総会報告・新役員紹介/ 初出版本紹介……………4	

ら 日本国際薬膳師会の活動とこれか

兼副会長
日本国際薬膳師会事務局長

国際薬膳師の資格は中国薬膳分野で最高の権威があり、中国国家中薬管理局に属している中国薬膳研究会が発行しています。日本では二〇〇〇年に初めて国際薬膳師試験が行われ、25名が資格を授与されました。二〇〇二年には辰巳洋先生によって本草薬膳学院が創立され、中医学に基づく薬膳教育が開始。二〇〇四年第2回試験では本草薬膳学院卒業生を中心に、52名が資格を取得しました。これを機に、国際薬膳師(士)の資格を有する者の資質の向上と中医学養薬膳分野の推進を図ることを目的に辰巳先生を会長に日本国際薬膳師会が同年11月23日、学士会館にて会員46名で発足いたしました。

その後、会長の尽力により中国薬膳研究会との交流を深め、国際薬膳師資格認定授与式や共催による日中薬膳シンポジウム及び各地中医薬大学での研修会等を実施、二〇〇六年は薬膳と食生活国際学術シンポジウム『少子・高齢化社会の予防医学』を中国薬膳研究会及び中国南京自然医学会等と共催で250名参加の大イベントを開催、二〇〇九年は設立五周年記念『く薬膳は中医学の源流く現在の食生活における薬膳の果たす役割』昨年11月には設立10周年記念『薬膳を深め、健康寿命を延ばすく体質別薬膳く』の各テーマで式典・シンポジウムを開催しました。この十年の歩みは、たゆみない努力の積み重ねでありました。

現在、会員数は365名に増え、27年度も事業運営や新規事業を担当する役員45名にしっかりとバトンが引き継がれました。その業務内容は、総務部は組織強化を図り、ホームページを充実させ会員サービスに努める。学術部は食養・薬膳の理論及び実習の講習会を定期的に実施し、中医学養の分野で知識・技術を発揮するために薬膳コンクールを開催する。広報部は会報を発行し、中医薬膳学の知識や新情報・薬膳メニュー・会員の活動紹介などを掲載する。

交流部は会員の親睦を深め交流を図り、薬膳に関わる各学術団体・組織と友好関係を持ち、国内外で行われる薬膳に関する学術会議・コンテスト・交流に積極的に参加する。事業部は国際薬膳師会設立記念講演会を開催し、『体質判断&食材早見表』・研修講座レジュメ、『体質改善薬膳本(仮)』や中医学、薬膳に関わる書籍販売および薬膳に関するオリジナル商品の開発や販売等を行います。

今、本会の講座、交流会等の活動が関東中心となり、それ以外の地域にお住いの会員の会への参加をどうしていくかということが大きな課題であり、会長をはじめ役員一同解決策を模索しているところです。その一環として二〇一三年、薬膳普及活動に役立つ冊子『体質判断&食材早見表』を配布しました。そして『体質改善薬膳本(仮)』が8月緑書房から出版予定です。この本は設立10周年記念誌のレシピア集を核にさらに充実させた内容で、会員60名による110種類のレシピが満載されています。会長の監修、解説による薬膳料理の専門書として一冊は手元に置きたい本になっています。ご期待ください。

来年度は実用的で信頼性の高い『食品効能表(仮)』を発刊するため準備中です。

また、本会ではホームページ・ブログ・フェイスブックの活用が論議されています。会員の中でボランティアとしてお力を貸してくださる方はいませんか。このIT事業では全国の会員一人一人からご意見やご要望などを随時伺うことができずし、事業に自由に参加協力をお願いできません。本会の発展に大きく貢献してくれると確信しています。

日本国際薬膳師会は日本における薬膳分野唯一の権威ある専門家団体として活躍が期待されています。

会員であることを自覚し、薬膳の知識や技術の向上を図り、中医薬膳学分野の普及活動に従事しながら必要なノウハウをお互いに共有することが必要ではないでしょうか。

10周年が過ぎ、新たな一歩を踏み出しました。国際薬膳師の資格を持ちながらまだ会員でない方々をぜひお誘いください。

新鮮な発想で日本国際薬膳師会を

共に変革していきましょう!

「薬事法と薬膳に使える中薬」は都合により休載します。

各部報告・お知らせ

▲総務部：

- ①会員名簿管理・会員データ管理 会員登録表の集計継続
- ②組織強化・会員数増加をはかる 会員数 356 名 手続き中 4 名 (6/15 日現在) 今年度会員予定 380 名
- ③ホームページ管理(リニューアル計画中) ④会則の見直し・運営管理
- ⑤総会・各会議のお知らせ発送 ⑥一般会計・年会費のうちよ銀行自動振替業務の推進
- ⑦会員証の発行(新会員)

▲学術部：

- ①7月6日講習会：中医学の診断「舌診Ⅱ」講師 辰巳洋先生 参加者 27 名 (昨年に続く 2 回目)
- ②ステップアップ講座：3 回コース 講師 菅沼栄先生
 - 1) 9 月 11 日(金) 慢性疲労の中医弁証論治
 - 2) 10 月 9 日(金) 痺証(リュウマチ・関節痛)の中医弁証論治
 - 3) 11 月 13 日(金) 感冒・インフルエンザの中医弁証論治



▲事業部：

- ①日本国際薬膳師会設立記念・初出版記念講演会 場所：高輪和彊館 会費：2000 円
講師：日本国際薬膳師会会長 辰巳 洋先生 演題：「複合体質について」
日時：11 月 7 日(土) 14：30～ (13：30～14：30 書籍・薬膳茶等の紹介及び販売)
- ②「体質診断・食材早見表」の販売
- ③平成 26 年度研修講座レジメの販売
- ④国際薬膳師会 初出版本の販売
☆講演会、書籍等の詳細は薬膳師会ホームページでご確認下さい。

▲交流部：

- ①2015 年中国国際薬膳師合格証書授与式並びに中国研修旅行(6 月 7 日～14 日)は催行中止
- ②第 11 回 国際美食養生コンテスト「菩提杯」(8 月 1 日～6 日 於インド)は参加中止
- ③初出版記念祝賀会 11 月 7 日(土)講演会後同所にて開催 17 時～19 時半 会費：7000 円

▲広報部：会報「くこ」 39 号 (12 月 1 日) 40 号 (28 年 4 月 1 日) 発行予定

ミニコラム～小石川植物園



のちに白山御殿とな
る旧白山権現の敷地

文京区白山にある「小石川植物園」は約 320 年前の貞享元年(1684)に徳川幕府が設けた「小石川御薬園」が元になっています。「小石川御薬園」は貞享元年(1684)に 5 代将軍綱吉となって後、現在の南麻布にあった幕府の南薬園が廃止され、綱吉の居宅だった白山御殿の敷地の一部が新たに薬園とされて「小石川御薬園」と呼ばれるようになりました。8 代将軍吉宗の享保 6 年(1721)には面積約 4 万 5 千坪のほぼ現在の植物園の形となりました。享保 7 年 12 月(新暦 1723 年 1 月)に施薬院(養生所)が設けられ、享保 20 年(1735)には青木昆陽によるサツマイモ(甘藷)の試作が行われました。御薬園は時代とともに衰退し、幕末の頃には 5 千百坪にまで縮小しました。しかし、明治維新により「東京大学病院附属御薬園」として東京府の所轄となり、現在の正式名は東京大学大学院理学系研究科附属植物園です。この植物園は日本で最も古い植物園であるだけでなく、世界でも有数の歴史を持つ植物園の一つです。この中の薬園保存園では 8～9 月はカラケツメイ、エビスグサ、ウコン、ミシマサイコ、「藜蘆(りろ)」の一種シュロソウなどが見られます。10 月にはセンキュウ、サラシナショウマ、リンドウも開花します。秋になるとヒガンバナ、各種キク、そして紅葉といつ訪れても楽しめる植物園です。また、種子植物の精子の世界的発見となったイチョウ、ニュートンのリンゴの木、メンデルのブドウ、江戸時代の養生所の井戸など見どころもたくさんです。本物の薬草を見に行くのも、江戸時代の医療所に思いをはせるのも楽しいですね。

(アクセス：都営地下鉄三田線 白山駅下車 徒歩約 10 分)



旧東京医学校本館



薬園保存園